

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991000015		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 香芝 (虹ユニット)		
所在地	奈良県香芝市五位堂一丁目341番地1		
自己評価作成日	平成23年3月18日	評価結果市町村受理日	平成23年6月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2991000015&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様・職員共に楽しい雰囲気の中、日々の生活が送れることを意識し、支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは地域密着型サービスとして地域との関わりを大切に、誰もが気軽に立ち寄れる場所を目指し、ホームの行事には回覧板で近隣に知らせ、小学校や幼稚園にポスターを貼らせてもらうなど、積極的に地域に働きかけ交流を図っています。職員は利用者の思いにそよう支援していますが、外出等したいことが出来ない時には、庭や駐車場に出て外気浴をしてもらったり畑の野菜の世話を一緒にするなど、他に変わる事に対応し利用者の希望にそよう努力をしています。違うホームへ交換研修に出かけスキルアップを図ると共に、自分たちのケアを振り返り気づきを得るなど、職員に他を知る機会を確保しサービスの質の向上に努めています。職員同士の連携も良く取れており、常に助け合っケアに当たり、職員の笑顔が利用者や家族の安心と笑顔に結びついているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有できるよう、新人職員も含め各スタッフに伝えています。	法人の理念を玄関と更衣室に掲示し、職員は確認してから勤務に当たるよう心がけている。理念をもとに誰もが気軽に立ち寄れる場所にしたいとの思いから、行事の際には積極的に地域に働きかけ交流を図っている。	地域密着型サービスとして、ホームが大切にしている思いを言葉に表し、独自の理念を作成されてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会の加入・行事の時など町会様に参加の声掛けをさせていただいています。少しずつ理解を得ている状況です。	回覧板等で情報を得て、とんど焼きや町内会の大掃除に利用者と共に参加している。またホームの行事は案内を回覧板で回してもらい、小学校や幼稚園に掲示してもらい、参加者を募っている。近隣の保育園や幼稚園の園児が立ち寄ってくれたり、行事に招待されるなどの交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ADLの設置や、クリーンデーの日には、スタッフと自立されている方と共に、少しずつ地域の方々との交流を図っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加率が悪く、意見も少ない為、なかなか情報などの交流が図れていません。	運営推進会議は2ヶ月毎に家族、他ホームの管理者、職員等が参加して開催されている。会議では参加者が限られているため、ホームからの行事や活動、事故報告等に留まっているのが現状である。	地域の情報を得たり、より多くの助言や意見を運営に活かすためにも、行政や民生委員、地域関係者の出席を得て開催されることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば市町村に連絡と連絡を取り、報告・相談をしています。	市担当者や地域包括支援センターには毎回、運営推進会議への出席を依頼しているが、日程等の都合で実現していない。申請時や困難事例がある際には市担当者を訪れ、相談に乗ってもらっている。また研修や市主催の会議の情報ももらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止の為、玄関のみ施錠を行っています。	身体拘束については全体会議の中で具体的な例を挙げ勉強会を行ったり、疑問に思う時はその都度話し合っている。玄関の鍵は施錠しているが、庭や畑に出たり、散歩やドライブで対応するなど、なるべく利用者の要望に沿えるよう、職員同士が協力し合って対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、勉強会を実施しています。又虐待が起こらない現場作りに努めています。		

愛の家グループホーム 香芝（虹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部スタッフの研修参加となっている為、内容を全スタッフへ伝達することで、支援に繋がっていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一部スタッフの研修参加となっている為、内容を全スタッフへ伝達することで、支援に繋がっていきたいと思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	見学される時には、必ず不明な点がないようにご説明させて頂いています。アンケートなどで、疑問点があればすぐ対応させて頂けるよう、努めています。	家族には運営推進会議へ参加してもらったり、来訪時に時間を設け意見を聞くように努めている。出された意見はカンファレンスで検討しケアプランに反映したり、全体会議で検討するなどしている。また法人が定期的に家族にアンケートを取り、出された意見の対応策を検討し、結果はユニット毎に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的にスタッフの声を聞き、カンファを行うことで、意見を反映出来るようにしています。	管理者はユニット会議や全体会議で職員個々に発言を求め、個人的に話を聞くなどしている。「外出を増やしたい」との希望について検討し、全員と一緒に楽しめる行事を企画中でもあり、職員の提案やアイデアがあれば、出来ないのではなく出来るように取り組みサービス向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や努力している方に感謝の気持ちを忘れず、声掛けをさせて頂いています。やりがいを持てる様、一人一人の見守りにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議などでは、勉強会・研修を行い、スキルアップ心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他GHとは不定期での連絡をしていますが、スタッフ間の交流までには、発展しておりません。		

愛の家グループホーム 香芝（虹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直接的な関わり・間接的な関わり・又その方をよく観察し、御本人様の思いを出来るだけ理解できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来苑された時には、日常生活のお話をさせて頂き、不安や疑問を無くせるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様の要望には出来る限りの対応をさせて頂き、入居者様全てとはいきませんが、自由で安らぎのある生活を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護ではなく「支援」させて頂いてるという立場で、常にその気持ちを忘れず行動するように心掛けています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連絡を取り合いながら、より良い介護に繋げられる様に、ご相談させて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や行事参加の声掛けを行い、少しでも関係や交流を保って頂ける様に、サービスを提供しています。	ホームを親戚や友人、自宅の近所の人が訪ねてくれている。また利用者の希望に沿って自宅の近くをドライブしたり、馴染みの店に買い物に出かけるなどの馴染みの関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の中には、会話の少ない方もおられますので、フロアの座席の工夫や、スタッフが間に入る等にて、対応しています。		

愛の家グループホーム 香芝（虹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される際には、今後のお話しなどさせて頂いています。又他施設にいかれる際には、その施設の方に状況を詳しく伝える様にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様子観察や傾聴する事により、ご本人様のニーズを受け取り、ご本人様の意向に近づける様に努めています。	利用者の希望や意向は、職員との関わりの中から汲み取り把握したり、家族と面談の際に聞き取っている。利用者の思いは職員間の連絡帳に記載し検討され、アセスメントに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際には、必ず以前の生活と、ご本人様についての情報を把握する様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を知る事が生活のリズムに繋がる為、様子観察や情報収集に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に状態をご家族様に伝え、担当者会議等を開き、ケアに反映出来る様に、心掛けています。	アセスメントをもとに2週間の暫定プランを立て、その後全職員の意見を書面で求め、カンファレンスで話合ったうえでケアプランを作成している。プランは担当職員が毎週モニタリングし、6ヶ月毎に担当者会議を開き見直している。必要に応じて医師等の意見をプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録物については、その方の状態に合わせてケアプラン以外にも項目を増やし、情報共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援の提案を見つける為、ユニット会議やNs等出切るだけ多くの意見を頂くようにしております。		

愛の家グループホーム 香芝（虹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園・幼稚園の行事に招いていただいたり、ホーム行事に参加していただく事で、地域の方々とのふれあいを図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在内科・歯科に関しては、ホームDrとの連携を取り、それ以外の受診に関しても、ご家族様とご本人様の希望を取り入れています。	入居の際に相談してかかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医を継続出来ることも伝えているが、現在は全員がホームの協力医を利用している。協力医とは毎週の往診以外にも、夜間や緊急時など24時間対応が可能となっている。また歯科医も週に一度往診がある。職員として看護師の配置があり、医療体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2回/週看護師の出勤時、又不在時は電話連絡でスタッフと連携を図り、素早い対応を心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、ご家族様と共に、Drからのお話を聞かせていただき、又退院時には、今後の方針を相談の上、支援させていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在のところターミナルを迎えておられる方はおらず、医療が必要な時には十分な医療を受けて頂ける様に、ご家族様に相談させていただいています。	ホームでは医療行為が出来ないことを入居時に家族に説明し指針を交わしている。次の段階に向けて他施設への入居申し込みの提案も行っている。個々のケースの話し合いはあるが、看取りに対して職員間で方針を共有するまでには至っていない。	今後予測される重度化に備え職員間で話し合い、出来ること、出来ないことなどホームの方針を決定し共有されることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	吸引ノズルの使用方法や、消防署にて緊急時の対応を勉強しています。素早い対応が必要となる為、情報をすぐに持ち出し出来るように対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年消防訓練を行い、常に対応出来る様、努力・確認をしています。	年に2回消防署の指導を受けて避難訓練を実施している。その際には消火器や非常通報装置を実際に使って行っている。運営推進会議で参加者に働きかけたり、日々の会話の中で近隣に声をかけ協力を依頼している。	

愛の家グループホーム 香芝（虹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や誇りを考慮した声掛けを心掛けています。	介助の際の声かけは細心の注意を払い、プライバシーに配慮したケアを心がけている。職員は法人が主催するプライバシーの研修を受講し、ホームでも伝達研修を行い周知を図っている。今後は職員同士で言葉かけのロールプレイングによる勉強会を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の個性を引き出す為には、自己決定が大切なので、選択できる様に支援をおこなっております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、業務に流されることなく、入居者様を優先・行動する様に話し合っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立以外の方には、衣類などの選択・容姿などにも気を付け、ご本人様の希望を尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、アレルギーや好みを取り入れ、美味しく召し上がって頂ける様に工夫しています。下膳や片付けなどにも参加して頂いています。	法人が立てたメニューに沿って食材が届き、調理専門の職員がおり、下ごしらえや洗い物は利用者と一緒にしている。利用者の誕生日や行事には好みのメニューに変更したり、手作りおやつの日にはたこ焼き等を一緒に作って食べ楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせて刻み・とろみなどにし、1500Kcal/日を目標に提供し、体重や失病などにも気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施・口腔内に炎症がある方に関しては、スポンジなど使い、清潔を保つ様に心掛けています。		

愛の家グループホーム 香芝（虹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて排泄パターンの把握に努めています。又出来るだけおむつ等の使用を減少出来るよう、排泄パターンを探り対応しています。	個々の排泄パターンを把握し、日中は利用者の状態に応じて紙パンツから布パンツに変更し、声かけと誘導でトイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠を妨げないよう配慮し、おむつやパットを交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く取り入れる食事を中心に置き、(野菜・牛乳など)又適量の水分補給を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日々御本人様に確認し、入浴して頂いています。自己決定が困難な方・介助が必要な方につきましては清潔保持の為、定期的な入浴をして頂いています。	ホームでは午後からの入浴となっており、希望があれば毎日の入浴も可能で、夏場はシャワー浴にしたり、むくみがある時は足浴をしている。拒否が見られる利用者には入浴剤を使用したり家族や主治医に声をかけてもらうなど工夫して、週に2回は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて昼間休息をして頂いています。高齢の方には、食後(朝・昼)の30分～一時間の休息を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては変化が多いですが、変更時にはスタッフ間で申し送りを行うことで服薬状況を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しいと思われる事柄を探り、スタッフ同士伝え合い、対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・散歩に出掛けたり、地域での催し物には参加出来るように、町会様と連携を図っております。	天気や気候の良い時には、出来るだけ日常的な散歩や買い物、ドライブを行っている。行けない日は庭や駐車場に出て外気を感じてもらっている。また月に一度は行事として花見等の外出を支援している。	

愛の家グループホーム 香芝（虹ユニット）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理となっておりますが、御本人様の希望時には、買い物に行って頂き、ご自分での買い物をして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、御本人様からの電話や手紙をして頂いています。その際には、御家族様の都合も把握し、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除に重点を置き、四季に応じた温度調整をしています。ホーム内では壁面などに四季に応じた作品を掲示しています。	日差しがよく入るリビングの壁に貼り絵やパッチワーク等を飾ったり、玄関や庭の畑に花や野菜を植え季節を感じることが出来るようにしている。観葉植物を各所に置き、和室やソファの配置で落ち着ける寛ぎの空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、孤独感を感じられることのないよう、入居者様同士の会話を大切にしながらスタッフも間に入り、楽しい雰囲気作りを心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家で使用されていた物・家具等を置いて頂き、安心出来る空間作りを心掛けています。	居室の入り口は職員の手作りで手芸の表札が掛けられている。居室内はタンスが用意されており、利用者は自宅からベッドやテレビ、仏壇、テーブル・椅子、鏡台等を持参され、花や写真を飾り配置等も工夫している。希望があれば畳を入れ布団で休む事も出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送って頂ける様に、出来る事・解ることを増やせる様に、間接的な支援も大切にしております。		